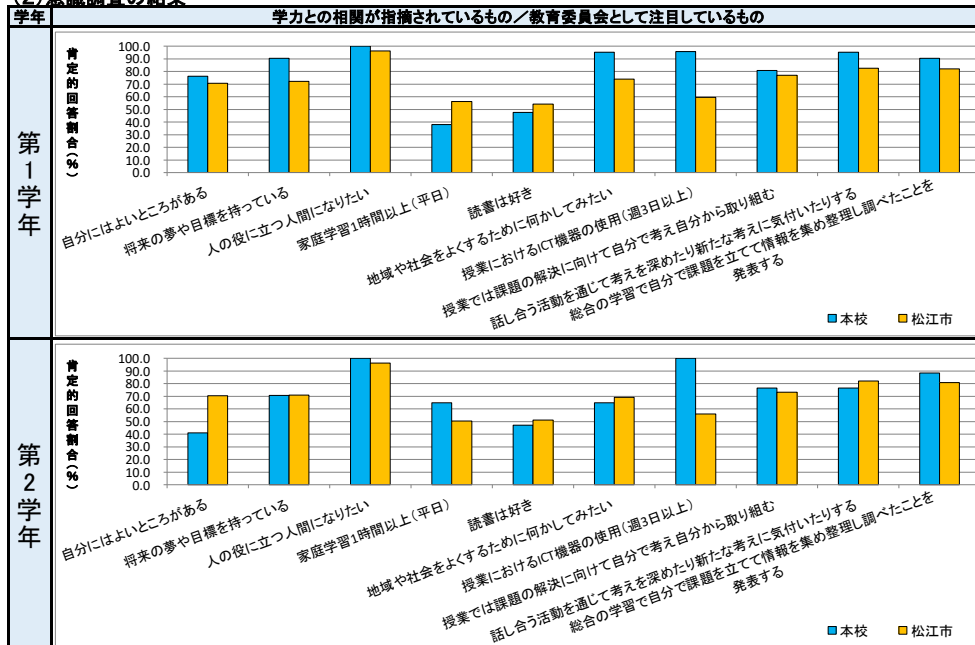


(1)教科調査の結果

学年	教科	分析(成果○/課題●)	改善策(○)
第1学年	国語	成果 ○読み手の立場に立って文章を整える問題と、多様性のある社会に関する文章を読んで要旨を捉える問題の正答率が、市の平均と推定全国値を上回った。 ○全体的に市の平均を下回ったものの、話すこと・聞くことの領域については比較的正答率が高かった。	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠を明確にして書くことに加え、根拠を明確にして読むことに意識して取り組むような活動を取り入れる。 ・情報のアウトプットについて、話すことで表現することが得意な生徒は多いが、書くことが苦手な生徒も多い。条件を明示した作文など、書くことをこれからも継続していきたい。
		課題 ●知識・技能を問う問題の正答率がかなり低い。小学校で学習した漢字や、歴史的仮名遣い、文節についての理解を問う問題など、文法・語句に関する事項の正答率が、平均を大きく下回っている。 ●文章の構成や展開について、根拠を明確にして考える問題の正答率が低い。根拠を明確にして文章を書くことは授業で何度も取り組んでおり、できるようになった生徒が多いが、読むこととつなげることができなかったと考えられる。	
	成果 ○点の座標を読み取る問題の正答率が全国平均を大きく上回った。座標を点で示して線をつなぐとイラストが完成するプリントに取り組み、プロットミスの原因を自分で考えて正しく直す経験が結果につながったと考えられる。 ○比例・反比例の特徴を比較して整理したり、反比例については比例定数の特徴を丁寧に確認したことにより、反比例の関係を式で表す問題の正答率が全国平均を上回った。		
	課題 ●成果に挙げた2点は、生徒が意欲的に取り組んだ内容であった。教材への興味関心が学習定着に影響すると考えられるため、教材研究を丁寧に行う必要がある。 ●式を左から単純に計算してしまう生徒が多く、四則計算、括弧のついた計算を苦手としている。 ●短文の問題文、視覚的に内容を伝える資料がある問題などは取り組みやすく正答率も低くないが、いくつかの工程を要する問題を苦手としている。		
第2学年	国語	成果 ○歴史的仮名遣いや敬語など、文法・語句に関する事項の正答率が高い。 ○知識・技能を問う問題の正答率が高く、市の平均を上回った。	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の県学力調査では、文法や語句の正答率が低いという結果が出ていたが、小テストを実施したり、プリントで復習するなど、既習のことを振り返る学習を繰り返した。引き続き取り組みたい。 ・新聞などの文章を読む活動を増やしたい。
		課題 ●文章と図表を結び付け関係をふまえて内容を解釈する問題や、文章を読んで考えたことを知識や経験と結び付ける問題の正答率が低かった。 ●生成AIに関する文章を読み、文章の展開や論理の構成について考える問題の正答率は、推定全国値を大きく下回った。	
成果 ○式の計算、図形分野については、基礎基本の内容を理解している。 ○図形分野では、記述式の証明に課題はあるが、選択式で正しい証明を選ぶ問題では正答率が全国平均を超えていた。授業において、多くの証明問題にふれることで証明の形式を理解することができたと考える。			
課題 ●基礎基本の計算となる連立方程式の解の求め方、一次関数の式を求める方法を理解していない生徒が多い。 ●文章を読んで何を問われているのかを理解したり、問題文から数量関係を見出して立式することを苦手としている。読解力に大きな課題がある状況である。			
第2学年	英語	成果 ○知識・技能、思考・判断・表現、総合と3つの項目において、市の平均を上回る結果になった。 ○書くことの領域については、聞くこと、読むことと比べ、市の平均を大幅に超え、推定全国値に近い値となった。 ○1年生と同様に単語の並び替えによる英作文の問題は推定全国値を大きく上回っている。本校の取組である基礎学力テストの成果が出ており、語順が定着していると考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の県学力調査では、文法や語句の正答率が低いという結果が出ていたが、小テストを実施したり、プリントで復習するなど、既習のことを振り返る学習を繰り返した。引き続き取り組みたい。 ・新聞などの文章を読む活動を増やしたい。
		課題 ●推定全国値には大幅に達していないため、この数値に達するよう定着を図る必要がある。 ●語順がある程度定着している一方、3文以上の英作文や語彙の知識理解の問題では、推定全国値から大幅に下回る結果となっている。語彙力の低さにより、英作文で書きたいことを書くことができない、または、どのように書いたら良いかわからないという状況であると考えられる。	
成果 ○知識・技能、思考・判断・表現、総合と3つの項目において、市の平均を上回る結果になった。 ○書くことの領域については、聞くこと、読むことと比べ、市の平均を大幅に超え、推定全国値に近い値となった。 ○1年生と同様に単語の並び替えによる英作文の問題は推定全国値を大きく上回っている。本校の取組である基礎学力テストの成果が出ており、語順が定着していると考えられる。			
課題 ●総合正答率が推定全国値には大幅に達していないため、この数値に達するよう定着を図る必要がある。 ●1年生同様、語順がある程度定着している一方で、3文以上の英作文や語彙の知識理解の問題では、推定全国値から大幅に下回る結果となっている。語彙力の低さにより、英作文で書きたいことを書くことができない、または、どのように書いたら良いかわからないという状況であると考えられる。			

(2)意識調査の結果



＜傾向と今後の対策、分析＞	
成果○: 強み/伸ばしたい点	課題●: 弱み/改善を要する点
【第1学年】	
<ul style="list-style-type: none"> ○自己肯定感が高く、将来の夢を抱いて生活している生徒が多い。 ○地域貢献の意識が高い。 ○ICT機器は有効に活用されている。 ○話し合い活動は積極的にやっている生徒が多い。 ●家庭学習の習慣が身に付いていない生徒が多い。 ●読書習慣はあまり身に付いていない。 	
【第2学年】	
<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習の習慣が身に付いている生徒が、昨年度と比べて大幅に増えた。 ○将来について考え、見通しをもって学習や活動に取り組む生徒が多い。 ●自己肯定感が全体的に低い。 ●読書が好きな生徒が少ない。 	

【R7学力調査受検者数】

第1学年	21	名
第2学年	17	名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示